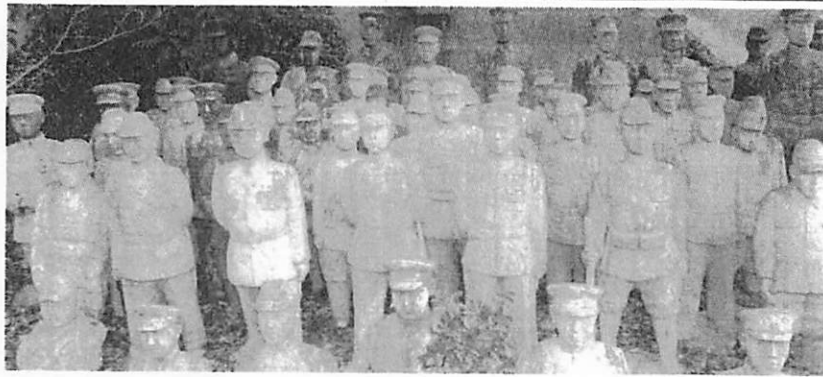


南知多町にある貴重な

戦争遺跡や史跡の保護と活用を！

南知多町には、いくつかの貴重な戦争遺跡や史跡があります。岩屋にある軍人像、片名の特攻兵器「震洋」の格納壕、篠島には弾薬庫跡と思われる所など。しかし、下の「知多の戦争物語」で紹介された大井にあつた特攻兵器「回天」の格納壕跡は宅地造成で埋められてしまいました。また、大井の戦国時代のものと思われる狼煙(のろし)台跡などの史跡もあります。これらの保護や活用が十分ではありません。このような貴重な戦争遺跡や史跡を保存し、後世に残し、伝えていくことが必要です。



「わが夫わが子の遺言」

戦没兵士像 南知多町・中之院

戦争が平和か、日本の進路が問われる参院選の前に、日本の中国侵略戦争の戦没兵士像のある南知多町山海の天台宗大慈山・中之院(通称・ためぎ寺)を訪れました。院の前の崖下に多数の兵士像が並んでいます。案内板にこうあります。軍人像は、1937(昭和12)年の上海上陸作戦における呉淞の敵前上陸で戦死した名古屋第3師団歩兵第6連隊の兵士達です。緊急の出勤で、名古屋城内の兵営から名古屋港まで夜間13時の徒歩行軍ののち、はしげに分乗。野間沖に待機していた海軍の巡洋艦や駆逐艦に乗り込み中国大陸へ。敵前上陸しましたが、中国軍の反撃をうけ、上陸から半年足らずでほとんど全滅しました。戦没兵士像は戦時中に制作された。しかし、戦意高揚のための「殉国烈士」では

ありません。めいめいの遺族が戦没者一時金をもって生前の写真をもって造らせたといえます。像の一つひとつに個性と命があり、わが夫わが子の姿があります。愛知県平和遺族会の訴えを思い出しました。「再び戦没者と戦没者遺族をつくらない。憲法9条は戦没者の遺言」。

戦没兵士像の作者は彫刻家の浅野祥雲。コンクリート製の塑像を多数制作しており、犬山の桃太郎神社の桃太郎像や日進の五色園の親鸞などの僧侶像が知られています。(林信敏)

【交通案内】名鉄河和駅または内海駅から南知多町・海つ子バスで「岩屋寺」下車(土・日・祝のみ)。車なら南知多道路・古布インターから県道276号を山海方面へ、岩屋寺そば。

特攻隊訓練壕の跡(南知多町)

バスは次の見学地の南知多町に向かった。ガイドは佳奈に交代である。「さつき、雄大君が特攻の説明をしたけど、飛行機のほかにいろんな自爆用兵器が発明されました。師崎の大井には人間魚雷の「回天」を訓練する施設が作られました」

生徒「カイテンってなに?」。佳奈「回転ずしのカイテンではなくて、『回天』と書き、不利な形勢をひっくりかえすという意味です。大きな爆弾の中に兵士が一人入って、操縦をしながら敵の軍艦に体当たりする兵器で、完全に自爆です」。生徒「野蛮!」

大井漁港の近くでバスを降りて、丘の上になると洞穴があつた。

佳奈「戦争末期に軍はこの大井に特攻基地を作ろうとして、回天を格納する壕を掘った跡がこれです。でも、使う前に敗戦になりました」

K先生「この穴は土が軟らかくて危険だから中に入るなよ。君たちは特攻隊じゃないからな」。生徒たちは恐る恐る穴をのぞいて、またバスに乗り、片名の「新師崎」の停留所の近くで降りた。国道の山側の下にコンクリートの大きなトンネルが残っていた。



特攻兵器<震洋>格納壕 (南知多町片名)

佳奈「これは同じ特攻兵器の『震洋』を格納するための壕でした。『震洋』は全長5mで、ベニヤでつくった一人乗りの粗末なモーターボートです。その頭に爆薬を設置して走り、そのまま敵の軍艦に自爆攻撃する新兵器でした」

生徒「本当か?そんな兵器があつたなんてシンヨウできん」(笑い)。

佳奈「この壕は高さ二・四m、幅三m、奥行き約二〇mもあつて、作ったのはさつさきの河和の航空隊の予科練の若者たちでした。完成すれば、この下の海で訓練をしたり、出撃する予定だったので、その前に戦争に負けたので、使用されませんでした」。生徒「よかつたあ」。でも、全国では『回天』で約百人、『震洋』で約七百人の若者が犠牲になりました。敗戦がもう少しおけると南知多からもたくさんさんの若者が自爆攻撃をさせられたのです」

知多の戦争物語 40 若い世代に伝えたい戦争の話



中田空襲と戦争を記録する会編

「知多の戦争物語」より →